



613-001370 Rev.B 120413

CentreCOM® IA810M 取扱説明書

インダストリアル・イーサネット・スイッチ

CentreCOM® *IA810M*

取扱説明書

CentreCOM® IA810M

取扱説明書

本製品のご使用にあたって

本製品は、医療・原子力・航空・海運・軍事・宇宙産業など人命に関わる場合や高度な安全性・信頼性を必要とするシステムや機器としての使用またはこれらに組み込んだ使用を意図した設計および製造はされていません。

したがって、これらのシステムや機器としての使用またはこれらに組み込んで本製品が使用されることによって、お客様もしくは第三者に損害が生じても、かかる損害が直接的または間接的または付随的なものであるかどうかにかかわらず、弊社は一切の責任を負いません。

お客様の責任において、このようなシステムや機器としての使用またはこれらに組み込んで使用する場合には、使用環境・条件等に充分配慮し、システムの冗長化などによる故障対策や、誤動作防止対策・火災延焼対策などの安全性・信頼性の向上対策を施すなど万全を期されるようご注意ください。

安全のために

必ずお守りください

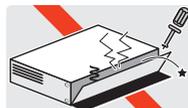


警告

下記の注意事項を守らないと火災・感電により、死亡や大けがの原因となります。

分解や改造をしない

本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。火災や感電、けがの原因となります。



分解禁止

雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

感電の原因となります。



雷のときはさわらない

異物はいれない 水は禁物

火災や感電のおそれがあります。水や異物を入れないように注意してください。万一水や異物が入った場合は、電源供給側の電源を切り、電源ケーブルをはずしてください。（弊社のサポートセンターまたは販売店にご連絡ください。）



異物厳禁

通風口はふさがない

内部に熱がこもり、火災の原因となります。



ふさがない

湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気のあたる場所には置かない

内部回路のショートの原因になり、火災や感電のおそれがあります。



設置場所注意

表示以外の電圧では使用しない

火災や感電の原因となります。本製品はDC24Vで動作します。



電圧注意

正しい電源ケーブルを使用する

不適切な電源ケーブルは火災や感電の原因となります。18AWG以上のDC電源ケーブルを使用し、DC電源供給装置・設備に接続してください。



正しい電源

設置・移動の時は電源プラグを抜く

感電の原因となります。電源供給側の電源を切ってから、電源プラグを抜いてください。



プラグを抜く

ケーブル類を傷つけない

特に電源ケーブルは火災や感電の原因となります。

電源ケーブルやプラグの取扱上の注意

- ・加工しない、傷つけない。
- ・重いものをのせない。
- ・熱器具に近づけない、加熱しない。
- ・ケーブル類をコンセントから抜くときは、必ずプラグを持って抜く。



傷つけない

光源をのぞきこまない

目に傷害を被る場合があります。

光ファイバーケーブルのコネクター、ケーブルの断面、製品本体のコネクターなどをのぞきこまないでください。



のぞかない

適切な部品で正しく設置する

取扱説明書に従い、適切な設置部品を用いて正しく設置してください。

指定以外の設置部品の使用や不適切な設置は、火災や感電の原因となります。



正しく設置

ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください

- ・直射日光の当たる場所
- ・暖房器具の近くなどの高温になる場所
- ・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
- ・湿気が多い場所や、水などの液体がかかる場所（仕様に定められた環境条件下でご使用ください）
- ・振動の激しい場所
- ・ほこりの多い場所や、シュートンを敷いた場所（静電気障害の原因になります）
- ・腐食性ガスの発生する場所



静電気注意

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊されるおそれがありますので、コネクターの接点部分、ポート、部品などに素手で触れないでください。



取り扱いはていねいに

落としたり、ぶつけたり、強いショックを与えたりしないでください。



お手入れについて

清掃するときは電源を切った状態で

誤動作の原因になります。



ケーブルを外す

機器は、乾いた柔らかい布で拭く

汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、固く絞ったもので拭き、乾いた柔らかい布で仕上げてください。



ぬらさない



中性洗剤
使用



固く絞る

お手入れには次のものは使わないでください

石油・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん・みがき粉（化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください。）



シンナー
類不可

はじめに

このたびは、CentreCOM IA810Mをお買いあげいただき、誠にありがとうございます。

CentreCOM IA810Mは、10BASE-T/100BASE-TXポートを8ポート、100BASE-FXポートを2ポート装備し、DIN レールマウントに対応したインダストリアル・イーサネット・スイッチです。

産業用途では一般的なDC24V電源入力に対応し、ポート、LED、電源入力部をすべて前面に集約しているため、DINレール設置時の作業性にも優れています。また産業用として求められる各種規格にも準拠しており、過酷な環境下でも安心して使用できます。

動作時温度60℃に対応し、高温環境下への設置が可能です。ファンレス設計で、粉塵の吸い込みなどによる障害への不安もありません。

豊富な省エネ機能を実装しており、特にトリガー機能を用いて指定期間LEDの消灯、ポートの機能停止（シャットダウン）を実行できるエコトリガー機能は、大幅な省電力効果を実現するほか、ネットワークへの侵入を完全に防ぐセキュリティー機能としても効果があります。

Telnet、コンソールポートのほかWebからも各機能の設定が可能で、CLIとGUIの2種類のユーザーインターフェースをサポートしています。また、SNMP機能の装備により、SNMPマネージャーから各種情報を監視・設定することができます。

最新のファームウェアについて

弊社は、改良（機能拡張、不具合修正など）のために、予告なく本製品のファームウェアのバージョンアップやパッチレベルアップを行うことがあります。最新のファームウェアは、弊社ホームページから入手してください。

なお、最新のファームウェアをご利用の際は、必ず弊社ホームページに掲載のリリースノートの内容をご確認ください。

<http://www.allied-tesis.co.jp/>

マニュアルの構成

本製品のマニュアルは、次の3部で構成されています。

各マニュアルをよくお読みのうえ、本製品を正しくご使用ください。また、お読みになった後も、製品保証書とともに大切に保管してください。

○ 取扱説明書(本書)

本製品のご使用にあたり、最初に必要な準備や設置のしかたについて説明しています。設置や接続を行う際の注意事項も記載されていますので、ご使用前に必ずお読みください。

○ コマンドリファレンス(弊社ホームページに掲載)

本製品で使用できるすべての機能とコマンドについて詳しく説明しています。各機能の使用手法やコマンドの解説に加え、具体的な設定例も数多く掲載しています。コマンドリファレンスは本製品には同梱されていません。弊社ホームページに掲載されています。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>

● トップメニュー

各章へのリンクが表示されます。
各章は機能別におおまかなグループ分けがされています。



コマンドリファレンス画面

● サブメニュー

各章の機能別索引が表示されます。
章内は機能解説とコマンドリファレンスで構成されています。

○ リリースノート(弊社ホームページに掲載)

ファームウェアリリースで追加された機能、変更点、注意点や、取扱説明書とコマンドリファレンスの内容を補足する最新の情報が記載されています。リリースノートは本製品には同梱されていません。弊社ホームページに掲載されています。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>

はじめに

表記について

アイコン

このマニュアルで使用しているアイコンには、次のような意味があります。

アイコン	意味	説明
 ヒント	ヒント	知っていると便利な情報、操作の手助けになる情報を示しています。
 注意	注意	物的損害や使用者が傷害を負うことが想定される内容を示しています。
 警告	警告	使用者が死亡または重傷を負うことが想定される内容を示しています。
 参照	参照	関連する情報が書かれているところを示しています。

書体

書体	意味
Screen displays	画面に表示される文字は、タイプライター体で表します。
User Entry	ユーザーが入力する文字は、太字タイプライター体で表します。
	四角枠で囲まれた文字はキーを表します。

製品名の表記

「本製品」と表記している場合は、CentreCOM IA810Mを意味します。場合によっては、IA810MのようにCentreCOMを省略して記載します。

画面表示

本書で使用されている画面表示例は、開発中のバージョンを用いているため、実際の製品とは異なる場合があります。また、旧バージョンから機能的な変更がない場合は、画面表示などに旧バージョンのものを使用する場合があります。あらかじめご了承ください。

目次

安全のために	4
はじめに	6
最新のファームウェアについて	6
マニュアルの構成	7
表記について	8
1 お使いになる前に	11
1.1 梱包内容	12
1.2 概要	13
特長	13
オプション (別売)	13
1.3 各部の名称と働き	14
前面	14
背面	16
側面	16
天面・底面	17
1.4 LED表示	18
ポートLED	18
ステータスLED	19
2 設置と接続	21
2.1 設置方法を確認する	22
設置するときの注意	23
2.2 DINレールに取り付ける	24
設置について	24
DINレールへの取り付け	25
2.3 ゴム足で平らな場所に設置する	28
2.4 オプションを利用して設置する	29
2.5 ネットワーク機器を接続する	30
ケーブル	30
2.6 コンソールを接続する	32
コンソール	32
ケーブル	32

目次

2.7	DC電源に接続する.....	34
	ケーブル.....	34
	DCプラグへのケーブルの接続.....	34
	DC電源への接続.....	35
2.8	設定の準備.....	36
	コンソールターミナルを設定する.....	36
	本製品を起動する.....	37
2.9	操作の流れ.....	38
3	付録	41
3.1	困ったときに.....	42
	自己診断テストの結果を確認する.....	42
	LED表示を確認する.....	43
	ログを確認する.....	43
	トラブル例.....	44
3.2	Web GUI.....	47
	設定環境.....	47
	設定の準備.....	48
	ログインする.....	49
	画面の構成.....	50
	メインエリアの操作.....	52
	設定を保存する.....	53
3.3	ハイパーターミナルの設定.....	55
3.4	Telnetクライアントの設定.....	57
3.5	仕様.....	58
	コネクター・ケーブル仕様.....	58
	本製品の仕様.....	60
3.6	保証とユーザーサポート.....	62
	保証、修理について.....	62
	ユーザーサポート.....	62
	サポートに必要な情報.....	62

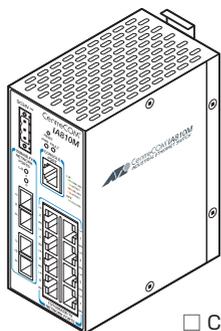
1

お使いになる前に

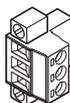
この章では、本製品の梱包内容、特長、各部の名称と働きについて説明します。

1.1 梱包内容

最初に梱包箱の中身を確認してください。

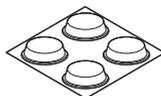


CentreCOM IA810M 本体 1台

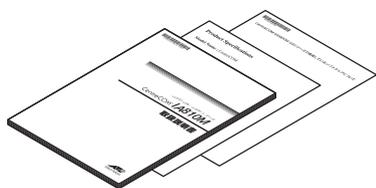


DCプラグ 1個

※ DC電源への接続には、UL規格に対応した18AWG (線径1.024mm) 以上のDC電源ケーブルを別途ご用意ください。



ゴム足 (粘着シールタイプ) 4個



使用しているソフトウェアについて 1冊
 製品仕様書(英文) 1枚
 取扱説明書(本書) 1冊



ソフトウェア使用権許諾契約書 1部
 製品保証書 1枚
 シリアル番号シール 2枚

本製品を移送する場合は、ご購入時と同じ梱包箱で再梱包されることが望まれます。再梱包のために、本製品が納められていた梱包箱、緩衝材などは捨てずに保管してください。

1.2 概要

本製品のハードウェア的な特長とオプション（別売）製品を紹介します。オプション製品のリリース時期については最新のリリースノートやデータシートをご覧ください。

特長

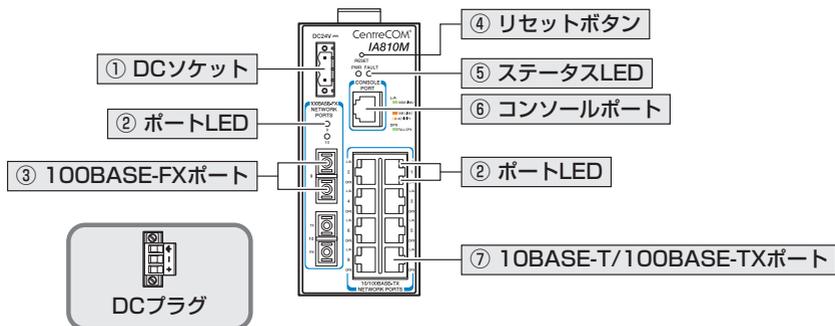
- 産業用途では一般的なDC24V電源入力に対応
- 動作時温度を60℃まで保証
- 小型サイズ、ファンレス設計
- 本体付属の取付金具でDINレールへの設置が可能
- ポート、LED、電源入力部を本体前面に集約し、DINレール設置時の作業性を確保
- 10BASE-T/100BASE-TXポートを8ポート、100BASE-FXポートを2ポート装備
- CLI/GUIで、ユーザーが指定した期間ポートのLEDを消灯させる、ポートをシャットダウンさせる設定が可能（エコトリガー機能）
- CLI/GUIで、ポートのLEDを消灯させる設定が可能（エコLED機能）

オプション（別売）

- 壁設置用磁石でスチール製壁面への取り付けが可能
マグネットシート S
- 専用のコンソールケーブルキットでコンソールのシリアルポート、USBポートと接続
CentreCOM VT-Kit2 plus
- 専用のRJ-45/D-Sub 9ピン（メス）変換RS-232ケーブルでコンソールと接続
CentreCOM VT-Kit2
※ コンソール接続には「CentreCOM VT-Kit2 plus」または「CentreCOM VT-Kit2」が必要です。
- フィーチャーライセンスにより高度な機能の追加が可能
IA-FL-01 EPSRトランジットライセンス

1.3 各部の名称と働き

前面



① DCソケット

DC電源ケーブルのDCプラグを接続するためのコネクタです。

本製品とDC電源ケーブルの接続には同梱のDCプラグを使用します。DC電源ケーブルは、UL規格に対応した18AWG（線径1.024mm）以上の銅線を別途ご用意ください。本製品にDC電源ケーブルは同梱されていません。

 参照 34ページ「DC電源に接続する」

② ポートLED

10BASE-T/100BASE-TXポート、100BASE-FXポートと接続先の機器の通信状況を表示するLEDランプです。

ポートLEDは、CLI/GUIによって点灯させないように設定することもできます（エコLED機能）。

○ L/A (Link/Activity)

接続先の機器とのリンク、パケットの送受信を表します。10BASE-T/100BASE-TXポートでは通信速度（10/100Mbps）も表します。

○ DPX (Duplex)

10BASE-T/100BASE-TXポートのデュプレックス（Half/Full Duplex）を表示します。

 参照 18ページ「LED表示」

③ 100BASE-FXポート

100BASE-FXの光ファイバーケーブルを接続するコネクタ（2連SC）です。ケーブルは、コア/クラッド径が50/125 μ m (ITU-T G.651 準拠)、または62.5/125 μ mのマルチモードファイバーを使用します。通信モードは100Mbps/Full Duplex固定(100MFULL)のみをサポートしています。

ご購入時には、ダストカバーが取り付けられています。ダストカバーは、光ファイバーケーブルを接続するとき以外、はずさないようにしてください。

 参照 30ページ「ネットワーク機器を接続する」

④ リセットボタン

本製品を再起動するためのボタンです。

先の細い棒などでリセットボタンを押すと、本製品はハードウェア的にリセットされます。



鋭利なもの（縫い針など）や通電性のあるもので、リセットボタンを押さないでください。

注意

⑤ ステータスLED

本製品全体の状態を表示するLEDランプです。

○ PWR

本製品への電源供給状態を表します。

○ FAULT

本製品の異常を表します。

 参照 18ページ「LED表示」

⑥ コンソールポート

コンソールを接続するコネクタ（RJ-45）です。

ケーブルはオプション（別売）のコンソールケーブル「CentreCOM VT-Kit2 plus」または「CentreCOM VT-Kit2」を使用してください。

 参照 32ページ「コンソールを接続する」

⑦ 10BASE-T/100BASE-TXポート

UTPケーブルを接続するコネクタ（RJ-45）です。

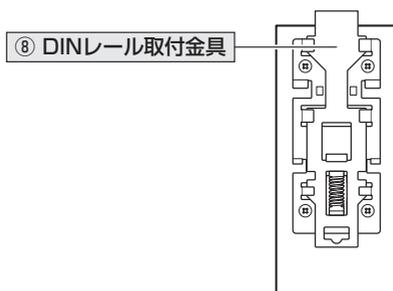
ケーブルは10BASE-Tの場合はカテゴリ3以上、100BASE-TXの場合はカテゴリ5以上のUTPケーブルを使用します。

通信モードはデフォルトでオートネゴシエーション (AUTONEGOTIATE) が設定されています。オートネゴシエーションの場合、MDI/MDI-X自動認識機能によって、接続先のポートの種類 (MDI/MDI-X) にかかわらず、ストレート/クロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができます。

 参照 30ページ「ネットワーク機器を接続する」

1.3 各部の名称と働き

背面

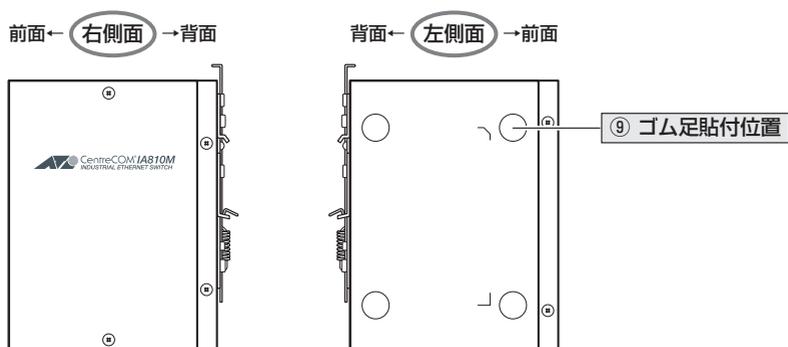


⑧ DINレール取付金具

本製品をDINレールに取り付けるための金具です。

 24ページ「DINレールに取り付ける」

側面



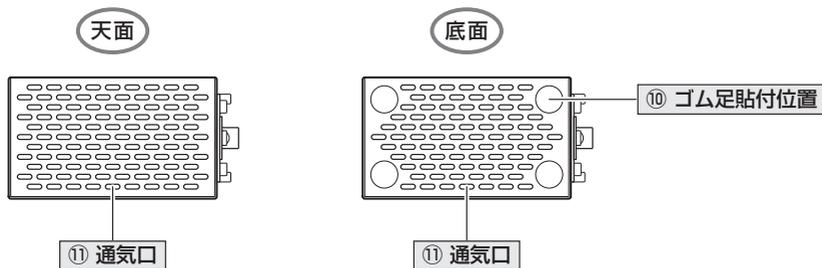
⑨ ゴム足貼付位置

同梱のゴム足を貼る位置を示す印で、左側面の四隅にあります。

本製品を平らな場所に設置するときはゴム足を使用してください。設置面に対して本製品を水平方向に置くときは、左側面の四隅にゴム足を貼り付けます。

 28ページ「ゴム足で平らな場所に設置する」

天面・底面



⑩ ゴム足貼付位置

同梱のゴム足を貼る位置を示す印で、底面の四隅にあります。

本製品を平らな場所に設置するときはゴム足を使用してください。設置面に対して本製品を垂直方向に置くときは、底面の四隅にゴム足を貼り付けます。

 参照 28ページ「ゴム足で平らな場所に設置する」

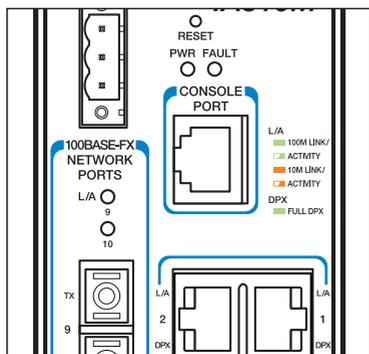
⑪ 通気口

本製品内部の熱を逃すための穴です。

 注意 通気口をふさいだり、周囲に物を置いたりしないでください。設置面に対して本製品を垂直方向に置くときは、必ず底面にゴム足を貼り付けてください。

1.4 LED 表示

本体前面には、本製品全体や各ポートの状態を示すLEDが付いています。



ポート LED

10BASE-T/100BASE-TXポートと100BASE-FXポートの状態を表します。

LED	色	状態	表示内容
10BASE-T/100BASE-TXポート			
L/A	緑	点灯	100Mbpsでリンクが確立しています。
		点滅	100Mbpsでパケットを送受信しています。
	橙	点灯	10Mbpsでリンクが確立しています。
		点滅	10Mbpsでパケットを送受信しています。
—	消灯	リンクが確立していません。 CLI/GUIによってLED消灯モードに設定されています。	
DPX	緑	点灯	Full Duplexでリンクが確立しています。
	—	消灯	Half Duplexでリンクが確立しています。
	—	消灯	リンクが確立していません。 CLI/GUIによってLED消灯モードに設定されています。
100BASE-FXポート			
L/A	緑	点灯	リンクが確立しています。
		点滅	パケットを送受信しています。
	—	消灯	リンクが確立していません。 CLI/GUIによってLED消灯モードに設定されています。

 CLI/GUIの設定で、ポートLEDを消灯モードにすることができます。CLI/GUIによる設定方法については、コマンドリファレンスを参照してください。

ヒント

 コマンドリファレンス / 省エネ機能

 コマンドリファレンス / Web GUI / システム設定

ステータス LED

本製品全体の状態を表します。

LED	色	状態	表示内容
FAULT	赤	点灯	本製品のシステムに異常があります。
		1回点滅	本製品起動中、ファームウェアダウンロード中、またはフラッシュメモリーに書き込み中です。 ^{*1}
		3回点滅	本製品の電圧に異常があります。 ^{*2}
		6回点滅	本製品の内部温度に異常があります。 ^{*2}
	—	消灯	本製品に異常はありません。
POWER	緑	点灯	本製品に電源が供給されています。
	—	消灯	本製品に電源が供給されていません。

※1 約1秒の点灯と約1秒の消灯を繰り返します。ただし、本製品起動中は速い点滅になりません。

※2 3回/6回の速い点滅の後、約2秒間の消灯時間があります。

2

設置と接続

この章では、本製品の設置方法と機器の接続について説明しています。

2.1 設置方法を確認する

本製品は次の方法による設置ができます。

- 本体付属の取付金具による DIN レールへの設置
DIN 規格 35mm のレール上に装着できます。
- ゴム足による平らな場所への設置
本製品を卓上や棚などの平らな場所に設置する場合は、同梱のゴム足を使用してください。ゴム足は、本製品への衝撃を吸収したり、本製品の滑りや設置面の傷つきを防止したりします。
- 壁設置用磁石によるスチール製壁面への設置
オプション（別売）の「マグネットシート S」を使用してスチール製壁面に設置できます。



弊社指定品以外の設置金具を使用した設置を行わないでください。また、本書に記載されていない方法による設置を行わないでください。不適切な方法による設置は、火災や故障の原因となります。



水平方向以外に設置した場合、「取り付け可能な方向」であっても、水平方向に設置した場合に比べほこりがたまりやすくなる可能性があります。定期的に製品の状態を確認し、異常がある場合にはただちに使用をやめ、弊社サポートセンターにご連絡ください。



製品に関する最新情報は弊社ホームページにて公開しておりますので、設置の際は、付属のマニュアルとあわせてご確認のうえ、適切に設置を行ってください。

設置するときの注意

本製品の設置や保守をはじめの前に、必ず4ページの「安全のために」をよくお読みください。

設置については、次の点にご注意ください。

- 電源ケーブルや各メディアのケーブルに無理な力が加わるような設置は避けてください。
- テレビ、ラジオ、無線機などのそばに設置しないでください。
- 十分な換気ができるように、本製品の通気口をふさがないように設置してください。設置面に対して本製品を垂直方向に置くときは、必ず底面にゴム足を貼り付けてください。
- 傾いた場所や不安定な場所に設置しないでください。
- 底面を上にして設置しないでください。
- 本製品の上に物を置かないでください。
- 直射日光の当たる場所、多湿な場所、ほこりの多い場所、強電界・強磁界・静電気などによるノイズが発生する場所に設置しないでください。
- 急激な温度変化を与えないでください。結露により故障の原因になります。
- コネクターの端子にさわらないでください。静電気を帯びた手(体)で、コネクターの端子に触れると静電気の放電により故障の原因になります。
- 本製品内部に切粉や配線クズが入らないように注意してください。火災や故障の原因になります。
- 通電中や電源を切った直後は、本体に触れないでください。やけどの原因になります。
- 本製品は屋外ではご使用になれません。
- 本製品は防爆エリアではご使用になれません。防爆エリアとは、可燃性のガスや蒸気が存在する危険場所で、爆発や火災を防ぐため、防爆構造の電気機器の使用が義務づけられている区域を指します。
- 本製品は汚染度2以下の環境で使用するようにしてください。汚染度とは、機器が使用される環境でどのような汚染を受けるかを示す指標です。汚染度2は、非導電性の汚染しか発生しないが、凝結による一時的な導電がたまたま起こりうる環境です。

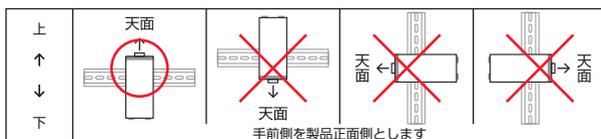
2.2 DIN レールに取り付ける

本体背面に付属のDINレール取付金具を使用して、DIN規格35mmのレール上に取り付けることができます。

設置について

設置方向

必ず下図の○の方向に設置してください。

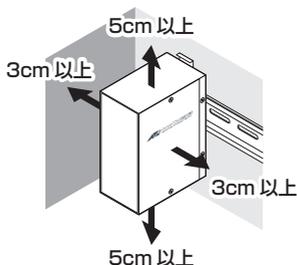


 必ず○の方向に設置してください。それ以外の方向に設置すると、正常な放熱ができなくなり、火災や故障の原因となります。

離隔距離

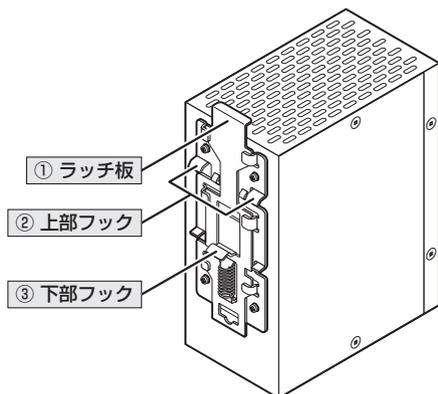
本製品の動作時温度は0～60℃（垂直方向設置時）です。DINレールを使用して本製品を制御盤内に設置する場合は、盤内温度の上昇に充分配慮をして、盤内の温度が本製品の動作時温度範囲を超えないようご注意ください。

盤内設置時は、下記に示す値を目安に本体上下部、および壁面との間に距離を確保してください。



DIN レールへの取り付け

はじめに取付金具の説明をします。



① ラッチ板

DIN レールに取り付けるための板です。指で押すと下がり、離すとバネの力で元の位置に戻ります。

② 上部フック

DIN レールを挟み込んで固定するためのフックです。

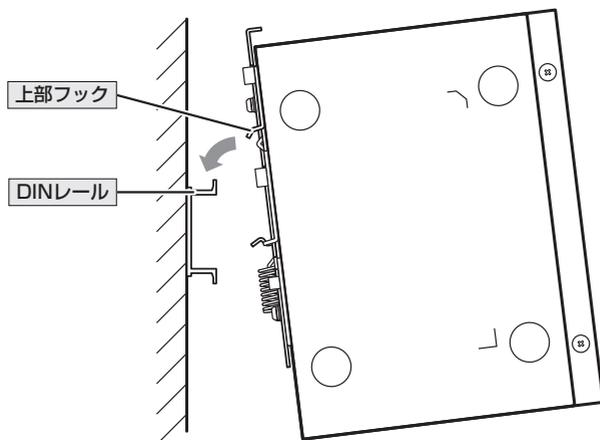
③ 下部フック

DIN レールを挟み込んで固定するためのフックです。ラッチ板に付いています。

以下の手順で取り付けを行ってください。

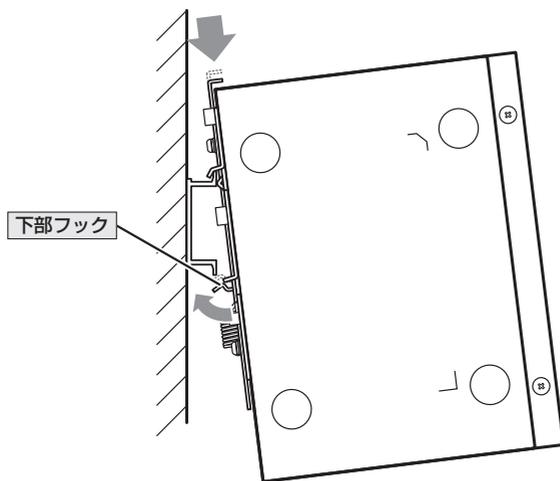
- 1 電源ケーブルや各メディアのケーブルをはずします。
- 2 取付金具の上部フックを DIN レールの上側に引っかけます。

2.2 DIN レールに取り付ける

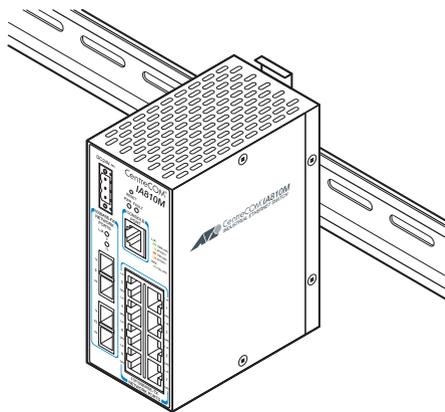


- 3 ラッチ板の上部を指で押して、ラッチ板を下げます。
- 4 ラッチ板を押しながら、ラッチ板の下部フックでDINレールの下側を挟み込むようにします。

押しながら下部フックでDINレールを挟み込む



5 ラッチ板から指を離して、DINレールに本製品を固定します。



DINレールから本製品を取りはずす場合は、ラッチ板を押しながら、ラッチ板の下部フックをはずしてください。



本体付属の取付金具を使用して確実に固定してください。固定が不十分な場合、落下などにより重大な事故が発生する恐れがあります。

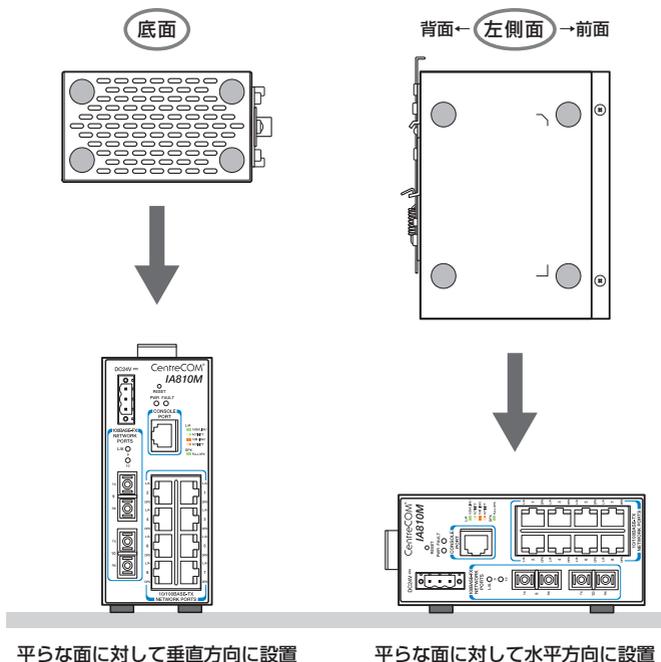


落下防止のため強力なバネを使用していますので、ラッチ板を押し下げるときは、設置する機器全体をしっかりと持った状態で行ってください。

2.3 ゴム足で平らな場所に設置する

本製品を卓上や棚などの平らな場所に設置する場合は、同梱のゴム足を使用します。

- 1 ゴム足を台紙からはがします。
- 2 底面または左側面の四隅にある○印にあわせてゴム足を貼り付けます。設置面に対して本製品を垂直方向に置くときは底面に、水平方向に置くときは左側面にゴム足を貼ります。



 上記以外の面にゴム足を貼って設置しないでください。不適切な方法による設置は、火災や故障の原因となります。

 設置面に対して本製品を垂直方向に置くときは、必ず底面にゴム足を貼り付けてください。ゴム足を使用しないと、本体底面の通気口がふさがれて、火災や故障の原因となります。

2.4 オプションを利用して設置する

本製品はオプション（別売）の壁設置用磁石「マグネットシート S」を使用してスチール製壁面に取り付けることができます。

取り付け方法については、「マグネットシート S」に付属の取扱説明書を参照してください。

必ず下図の○の方向に設置してください。

マグネットシート取り付け面にゴム足が貼られている場合は、ゴム足をはずしてください。



設置面の状態によっては、マグネットの十分な強度を得られない場合があります。

注意



必ず○の方向に設置してください。それ以外の方向に設置すると、正常な放熱ができなくなり、火災や故障の原因となります。

警告



マグネットの取り付けおよび機器の設置は、ケーブルなどの重みにより機器が落下しないように確実に行ってください。けがや機器破損の原因となる恐れがあります。

警告



本製品へのマグネットの取り付けは、マグネットシートの取扱説明書に従って正しく行ってください。指定以外のネジなどを使用した場合、火災や感電、故障の原因となることがあります。

警告

2.5 ネットワーク機器を接続する

本製品にコンピューターや他のネットワーク機器を接続します。

ケーブル

使用ケーブルと最大伝送距離は以下のとおりです。

ポート	使用ケーブル	最大伝送距離
10BASE-T/100BASE-TX	10BASE-T : UTPカテゴリ 3以上	100m
	100BASE-TX : UTPカテゴリ 5以上	
100BASE-FX	GI 50/125 マルチモードファイバー (ITU-T G.651 準拠)	2km
	GI 62.5/125 マルチモードファイバー	

10BASE-T/100BASE-TX ポート

10BASE-T の場合はカテゴリ 3 以上、100BASE-TX の場合はカテゴリ 5 以上の UTP ケーブルを使用します。

通信モードがオートネゴシエーションの場合、接続先のポートの種類 (MDI/MDI-X) にかかわらず、ストレート/クロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができます。

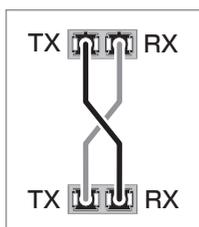
MDI/MDI-X 自動認識を無効に設定する、または通信モードをオートネゴシエーション無効の固定設定にする場合は、MDI または MDI-X のどちらかに設定する必要があります (デフォルトは MDI-X)。接続先のポートが MDI の場合は本製品のポートを MDI-X に、接続先のポートが MDI-X の場合は本製品のポートを MDI に設定すれば、ストレートタイプのケーブルで接続できます。

なお、100BASE-FX ポートで、MDI/MDI-X 自動認識を無効に設定する、または通信モードを 100Mbps/Full Duplex 固定以外に変更することはできません。

100BASE-FX ポート

光ファイバーケーブルは SC コネクタが装着されたものをご用意ください。

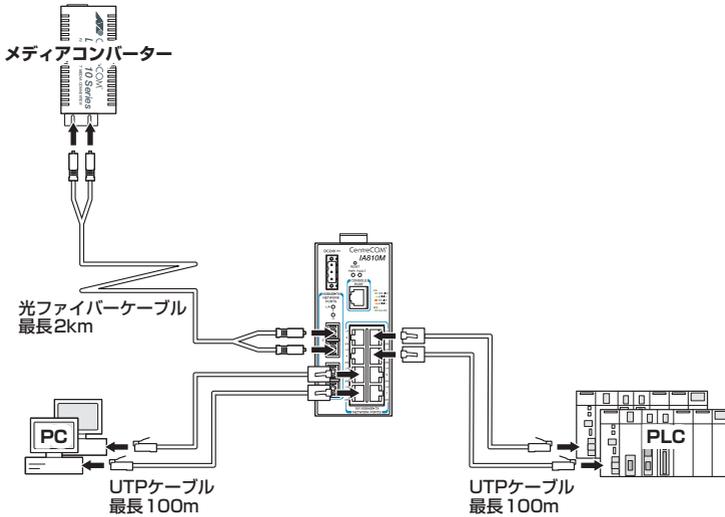
光ファイバーケーブルは 2 本で 1 対になっています。本製品の TX を接続先の機器の RX に、本製品の RX を接続先の機器の TX に接続してください。





100BASE-FXポートに光ファイバーケーブルを接続していないときは、必ずダストカバーを装着してください。

ネットワーク接続例です。PLCは制御装置（プログラマブルロジックコントローラー）のことで、この例では、イーサネット用のコネクタが装備されているものを用いています。



通信ケーブルは、高圧線や動力線に近づけたり、束ねたりしないでください。誤動作の原因になります。

2.6 コンソールを接続する

本製品に設定を行うためのコンソールを接続します。本製品のコンソールポートは、RJ-45 コネクタを使用しています。弊社販売品のCentreCOM VT-Kit2 plus、またはCentreCOM VT-Kit2を使用して、本体前面コンソールポートとコンソールのシリアルポート（またはUSBポート）を接続します。



CentreCOM VT-Kit2 plus、またはCentreCOM VT-Kit2を使用した接続以外は動作保証をいたしませんのでご注意ください。

コンソール

コンソールには、VT100をサポートした通信ソフトウェアが動作するコンピューター、または非同期のRS-232 インターフェースを持つVT100 互換端末を使用してください。



コンソールには、ノートパソコンなど接地されていないコンピューターを使用してください。コンソールポートに接続されているコンピューターが接地されていると、場合によってはDC電源が短絡することがあります。



通信ソフトウェアの設定については、36ページ「コンソールターミナルを設定する」で説明します。

ケーブル

ケーブルは弊社販売品のCentreCOM VT-Kit2 plus、またはCentreCOM VT-Kit2をご使用ください。

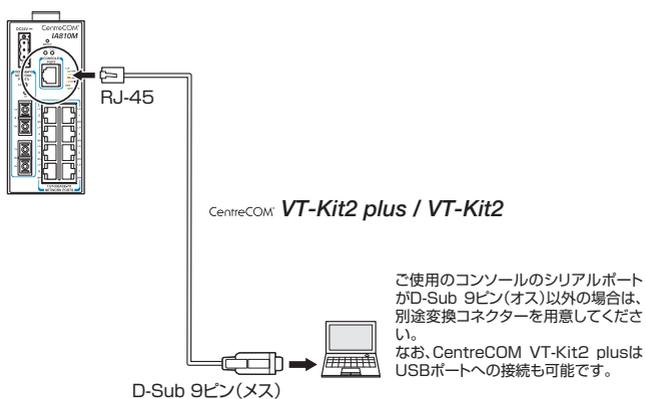
- CentreCOM VT-Kit2 plus： マネージメントケーブルキット
以下のコンソールケーブルが3本セットになっています。

- ・D-Sub 9ピン(オス)/D-Sub 9ピン(メス)
- ・RJ-45/D-Sub 9ピン(メス)
- ・D-Sub 9ピン(オス)/USB

ご使用のコンソールのシリアルポート（D-Sub 9ピン）またはUSBポートへの接続が可能です。なお、USBポート使用時の対応OSは弊社ホームページにてご確認ください。

- CentreCOM VT-Kit2： RJ-45/D-Sub 9ピン(メス)変換RS-232ケーブル

ご使用のコンソールのシリアルポートがD-Sub 9ピン（オス）以外の場合は、別途変換コネクタをご用意ください。



2.7 DC 電源に接続する

本製品を DC 電源に接続します。



必ず電源が遮断されていることを確認してから作業を行ってください。電源供給が行われている状態で結線すると、感電や機器故障の原因となります。



- ・ 必ず同梱の DC プラグを使用して接続してください。
- ・ 本製品に給電する DC 電源は UL1310 で規定された Class 2 電源装置を使用してください。本製品の入力電圧範囲は 60 ページ「本製品の仕様」を参照してください。
- ・ 接地工事は D 種接地 (第 3 種接地) で行ってください。また、本製品の接地は他の機器とは分離した専用接地にしてください。専用接地がとれないときは、すべての接地線の長さと同じにした共用接地にしてください。

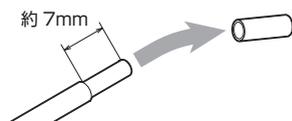
ケーブル

DC 電源ケーブルは、UL 規格に対応した 18AWG (線径 1.024mm) 以上の銅線を別途ご用意ください。本製品に DC 電源ケーブルは同梱されていません。

長さは 3m 以内を目安に配線してください。

DC プラグへのケーブルの接続

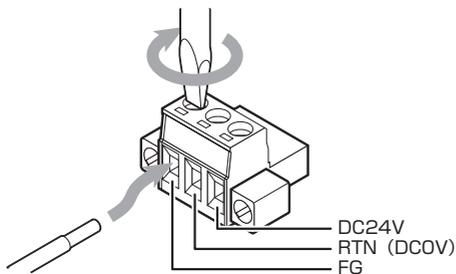
- 1 ワイヤーストリッパーを用いて電線の先端の被覆を 7mm 程度はがします。



上記の推奨値以上に絶縁体をはがさないでください。また、結線後は心線が露出していないことをご確認ください。感電や機器故障、ほこりなどの付着による発火の原因となります。

- 2 FG (フレームグラウンド) 線を接続します。

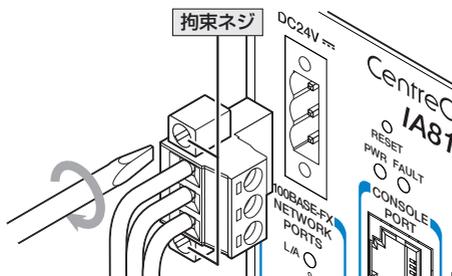
DC プラグに表示されている極性記号を確認し、FG 線を DC プラグ左端の端子穴に差し込んで、端子穴上部のネジをマイナスドライバーで仮締めします。



- 3 手順2と同様に、RTN (DC0V) 線を DC プラグ中央の-端子、DC24V 線を DC プラグ右端の+端子に結線します。
- 4 ネジを締め付けトルク0.6~0.7Nmで本締めします。

DC 電源への接続

- 1 DC 電源が遮断されていることを確認します。
- 2 DC プラグを、本体前面の DC ソケットに差し込みます。
- 3 マイナドライバーを使用して、DC プラグの両端にある拘束ネジを締め、DC プラグを製品本体に固定します。



- 4 本製品への電源供給を開始します。電源が入ると、本体前面の PWR LED (緑) が点灯します。



通電中に DC プラグに触れないでください。DC プラグのネジに触れると、感電の恐れがあります。



電源をオフにしてから再度オンにする場合は、しばらく間をあげてください。

2.8 設定の準備

コンソールターミナルを設定する

本製品に対する設定は、コンソールポートに接続したコンソール、またはネットワーク上のコンピューターからTelnetを使用して行います。

コンソールターミナル(通信ソフトウェア)に設定するパラメーターは次のとおりです。

項目	値
通信速度	9,600bps
データビット	8
パリティ	なし
ストップビット	1
フロー制御	なし
エミュレーション	VT100
BackSpaceキーの送信方法	Ctrl + H
エンコード方法	シフト JIS (SJIS)



通信ソフトウェアとして、Windows 2000/XPに標準装備のハイパーターミナルを使用する場合は、55ページ「ハイパーターミナルの設定」を参照してください。



Telnetを使用する場合は、あらかじめローカルから本製品にIPアドレスを割り当てておく必要があります。



コマンドリファレンス / IP



57ページ「Telnetクライアントの設定」

本製品を起動する

- 1 コンピューター（コンソール）の電源を入れ、ハイパーターミナルなどの通信ソフトウェアを起動します。
- 2 本製品の電源を入れます。
 参照 34ページ「DC電源に接続する」
- 3 自己診断テストの実行後、システムソフトウェアが起動します。また、起動時設定ファイルが指定されていれば、ここで読み込まれます。

```
Bootloader 1.1.5-atkk loaded

Reading flash:ia800m_v231B01.rel...

Verifying release... OK
Booting...
```

- 4 「login:」プロンプトが表示されます。

```
login:
```

2.9 操作の流れ

本製品に設定を行う際の操作の流れについて説明します。

設定方法についての詳細は、弊社ホームページに掲載の「コマンドリファレンス」をご覧ください。「コマンドリファレンス」の「運用・管理」で、システム関連の基本的な操作や設定方法について順を追って説明しています。初期導入時には、まずはじめに「運用・管理」を参照してください。

STEP 1 コンソールを接続する

コンソールケーブル (CentreCOM VT-Kit2 plus、またはCentreCOM VT-Kit2) で、本体前面コンソールポートとコンソールのシリアルポートを接続します。

 32ページ「コンソールを接続する」



STEP 2 コンソールターミナルを設定する

コンソールの通信ソフトウェアを本製品のインターフェース仕様に合わせて設定します。

 36ページ「コンソールターミナルを設定する」



STEP 3 ログインする

「ユーザー名」と「パスワード」を入力してログインします。
ユーザー名は「manager」、初期パスワードは「friend」です。
ユーザー名は大文字・小文字を区別しません。パスワードは大文字・小文字を区別します。

login: manager …「manager」と入力して キーを押します。

Password: friend …「friend」と入力して キーを押します。

 コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / ログイン



STEP 4 設定を行う

コマンドラインインターフェースで、本製品に対して設定を行います。

Manager > …プロンプトの後にコマンドを入力します。

以下にコマンド入力例を示します。

○ ログインパスワードを変更する

ログイン後、パスワードを変更する。パスワードは「openENDS」。

```
Manager > set password    
Old password: friend   (現在のパスワードを入力。入力したパスワードは「*」で表示  
されます)
```

```
New password: openENDS   (新しいパスワードを入力)
```

```
Confirm : openENDS   (確認のため、新しいパスワードをもう一度入力)
```

 コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / パスワードの変更



○ システム名を設定する

システム名として「sales」を設定する。

```
Manager > set system name=sales [Enter]
Operation successful.
Manager sales>
```

コマンド実行とともに、コマンドプロンプトの先頭が「Manager」から「Manager sales」に変更されます。

参照 コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / システム名の設定

○ IPアドレスを設定する

vlan1にIPアドレス「192.168.1.10」、サブネットマスク「255.255.255.0」、ゲートウェイアドレス「192.168.1.32」を設定する。

```
Manager sales> add ip interface=1 ipaddress=192.168.1.10 mask=255.255.255.0
gateway=192.168.1.32 [Enter]
```

参照 コマンドリファレンス / IP

○ システム時刻を設定する

```
Manager sales> set time=09:00:00 date=2010-09-08 [Enter]
System time is 2010-09-08 Wednesday at 09:00:00
```

参照 コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / システム時刻の設定

○ SNTPを利用して時刻を取得する

SNTPを有効にして、SNTPサーバーのIPアドレス「192.168.1.1」を指定する。

```
Manager sales> enable ntp [Enter]
Manager sales> add ntp peer=192.168.1.1 [Enter]
```

参照 コマンドリファレンス / 運用・管理 / SNTP



STEP 5 設定を保存する

設定した内容を保存するため、設定スクリプトファイルを作成します。

```
Manager sales> create config=sample.cfg [Enter]
```

参照 コマンドリファレンス / 運用・管理 / コンフィグレーション



STEP 6 起動時設定ファイルを指定する

保存した設定で本製品を起動させるため、起動時設定ファイルを指定します。

```
Manager sales> set config=sample.cfg [Enter]
```

参照 コマンドリファレンス / 運用・管理 / コンフィグレーション



2.9 操作の流れ

STEP 7 ログアウトする

コマンドラインインターフェースでの操作が終了したら、ログアウトします。

```
Manager > logoff 
```

LOGOFFのほかにLOGOUT、QUIT、EXIT、BYEも使用できます。



コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム

3

付 録

この章では、トラブル解決、Web GUIの使用方法、WindowsのハイパーターミナルとTelnetアプリケーションの使用方法、本製品の仕様、保証とユーザーサポートについて説明しています。

3.1 困ったときに

本製品の使用中になんらかのトラブルが発生したときの解決方法を紹介します。

自己診断テストの結果を確認する

本製品は自己診断機能を備えています。起動時やSHOW SYSTEMコマンド実行時に自己診断テストを行い、異常の内容に応じて動作を制御します。

テスト結果は、SHOW SYSTEMコマンドで確認できます。

```
Manager > show system 

Switch System Status                               Date 2011-03-18 Time 11:47:58
Board      Bay      Board Name
-----
Base       -        IA810M
-----
Memory -   DRAM : 65536 kB  FLASH : 16384 kB  MAC : 00-00-F4-27-75-13
-----
SysDescription : CentreCOM IA810M Ver 2.3.1 B01
SysContact      :
SysLocation     :
SysName         :
SysUpTime       : 1020100(02:50:01)
Release Version : 2.3.1
Release built   : B01 (Feb  9 2011 at 15:40:57)

Flash PROM      : Good
RAM             : Good
SW chip         : Good
UART           : Good

1.2V            : Normal          2.5V(A)          : Normal
2.5V(B)        : Normal          3.3V            : Normal
Temperature     : Normal

Configuration
Boot configuration file : sample.cfg (exist)
Current configuration  : sample.cfg
```

異常発生時には、以下の項目において「Failed」または「Warning」の表示がされますので、お問い合わせの前に確認してください。

- フラッシュメモリー
- RAM
- スイッチチップ
- UART

- 電源ユニットの出力状態
- 本製品内部の温度状態

LED 表示を確認する

LEDの状態を確認してください。LEDの状態は問題解決に役立ちますので、お問い合わせの前にどのように表示されるかを確認してください。

 参照 18ページ「LED表示」

ログを確認する

本製品が生成するログを見ることにより、原因を究明できる場合があります。SHOW LOGコマンドで、RAM上に保存されたメッセージを見ることができます。

```
Manager > show log 

Date      Time      Lv Message
-----
2011-03-18 08:12:37 7 Switch startup, Ver 2.3.1 B01 Feb 9 2011, 15:40:57
2011-03-18 08:12:37 3 Spanning Tree initialized
2011-03-18 08:12:37 3 Spanning Tree State machine initialization succeeded
2011-03-18 08:12:37 3 DHCP Snooping initialized
2011-03-18 08:12:37 3 UDLD initialized
2011-03-18 08:12:37 3 Created MSTI 1
2011-03-18 08:58:29 6 Port 1: interface is up
2011-03-18 09:00:37 6 Port 1: interface is down
2011-03-18 09:00:59 6 Port 1: interface is up
2011-03-18 09:03:48 3 User login on serial port
2011-03-18 09:13:12 3 User login on GUI from 192.168.1.10
-----
```

ログレベル(Lv)とその内容です。

Lv	呼称	内容
7	CRITICAL	きわめて重大な障害が発生している
6	URGENT	緊急を要する情報。障害が発生し、システムの動作に影響を与える(与えた)可能性がある
5	IMPORTANT	管理者の注意を要する重要な情報。障害の可能性がある
4	NOTICE	管理者の注意を要する可能性がある情報
3	INFO	各種イベントの通知。通常運用を示すもので緊急性はない
2	DETAIL	詳細な情報。通常運用時には無視できるが、有効な情報を含む可能性がある
1	TRIVIAL	DETAILよりさらに詳細な情報
0	DEBUG	デバッグ用のきわめて詳細な情報。大量のメッセージが出力される可能性がある

3.1 困ったときに

トラブル例

電源ケーブルを接続してもPWR LEDが点灯しない

正しい電源ケーブルを使用していますか

UL規格に対応した18AWG(線径1.024mm)の電源ケーブルをご用意ください。

 参照 34ページ「DC電源に接続する」

電源ケーブルが正しく接続されていますか

電源ケーブルが正しく接続されているか、極性が正しく接続されているか確認してください。

 参照 34ページ「DC電源に接続する」

DC電源に異常はありませんか

DC電源から本製品に対して電源が正常に供給されているか確認してください。なお、電源はUL規格におけるClass 2出力の電源を使用してください。

 参照 34ページ「DC電源に接続する」

PWR LEDは点灯するが、正しく動作しない

電源をオフにした後、すぐにオンにしていますか

電源をオフにしてから再度オンにする場合は、しばらく間をあけてください。

ケーブルを接続してもL/A LEDが点灯しない

接続先の機器の電源は入っていますか

ネットワークインターフェースカードに障害はありませんか

通信モードは接続先の機器と通信可能な組み合わせに設定されていますか

10BASE-T/100BASE-TXポートは、SET SWITCH PORTコマンドで通信モードをオートネゴシエーション無効の固定設定、またはオートネゴシエーション有効で特定の通信速度/デュプレックスのみを通知するモードに設定することができます。接続先の機器を確認して、通信モードが正しい組み合わせになるように設定してください。

100BASE-FXポートは100Mbps/Full Duplex固定のみをサポートしています。

正しいUTPケーブルを使用していますか

○ UTPケーブルのカテゴリ

10BASE-Tの場合はカテゴリ 3以上、100BASE-TXの場合はカテゴリ 5以上のUTPケーブルを使用してください。

○ UTPケーブルのタイプ

通信モードがオートネゴシエーションの場合、接続先のポートの種類 (MDI/MDI-X) にかかわらず、ストレート/クロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができます。

MDI/MDI-X自動認識を無効に設定する、または通信モードをオートネゴシエーション無効の固定設定にする場合は、MDIまたはMDI-Xのどちらかに設定する必要があります (デフォルトはMDI-X)。接続先のポートがMDIの場合は本製品のポートをMDI-Xに、接続先のポートがMDI-Xの場合は本製品のポートをMDIに設定すれば、ストレートタイプのケーブルで接続できます。

なお、100BASE-FXポートで、MDI/MDI-X自動認識を無効に設定する、または通信モードを100Mbps/Full Duplex固定以外に変更することはできません。

○ UTPケーブルの長さ

ケーブル長は最大100mと規定されています。

 30ページ「ネットワーク機器を接続する」

正しい光ファイバーケーブルを使用していますか

GI 50/125マルチモードファイバー (ITU-T G.651準拠)、またはGI 62.5/125マルチモードファイバーで、SCコネクタが装着されたものを使用してください。ケーブル長は最大2kmと規定されています。

光ファイバーケーブルは2本で1対になっています。本製品のTXを接続先の機器のRXに、本製品のRXを接続先の機器のTXに接続してください。

 30ページ「ネットワーク機器を接続する」

LED消灯モードに設定されていませんか

CLI/GUIの設定でLED消灯モードに設定されていないかを確認してください。

LED消灯モードに設定すると、ポートLEDが点灯(点滅)しくなくなります。

 18ページ「LED表示」

L/A LEDは点灯するが、通信できない

ポートが無効 (Disabled) に設定されていませんか

SHOW SWITCH PORTコマンドでポートステータス (Status) を確認してください。

3.1 困ったときに

コンソールターミナルに文字が入力できない

ケーブルや変換コネクタが正しく接続されていますか

本製品のコンソールポートは、RJ-45コネクタを使用しています。ケーブルは弊社販売品の「CentreCOM VT-Kit2 plus」、または「CentreCOM VT-Kit2」を使用してください。ご使用のコンソールのシリアルポートがD-Sub 9ピン（オス）以外の場合は、別途変換コネクタをご用意ください。

なお、「CentreCOM VT-Kit2 plus」は、USBポートへの接続が可能です。USBポート使用時の対応OSは弊社ホームページにてご確認ください。

 **参照** 32ページ「コンソールを接続する」

通信ソフトウェアを2つ以上同時に起動していませんか

同一のCOMポートを使用する通信ソフトウェアを複数起動すると、COMポートにおいて競合が発生し、通信できない、または不安定になるなどの障害が発生します。

通信ソフトウェアの設定内容（通信条件）は正しいですか

本製品を接続しているCOMポート名と、通信ソフトウェアで設定しているCOMポート名が一致しているかを確認してください。

また、通信速度（ボーレート）の設定が本製品とCOMポートで一致しているかを確認してください。本製品の通信速度は9600bpsです。

コンソールターミナルで文字化けする

COMポートの通信速度は正しいですか

通信速度（ボーレート）の設定が本製品とCOMポートで一致しているかを確認してください。COMポートの設定が9600bps以外に設定されていると文字化けを起こします。

文字入力モードは英数半角モードになっていますか

全角文字や半角カナは入力しないでください。通常、AT互換機では`[Alt]`キーを押しながら`[全角/半角]`キーを押して入力モードの切り替えを行います。

ログインできない

ログインセッションの最大数を超過していませんか

本製品のログインセッション数はローカル、リモート（Telnet接続）合わせて5つまで（Telnetのセッション数は1～4までで変更可能。デフォルトは4）です。リモートから、Telnetの最大セッション数の指定より多いセッションを同時に開くことはできません。設定が終了したら必ずLOGOUTコマンドでログアウトするようにしてください。

3.2 Web GUI

本製品はWebブラウザを利用したグラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) をサポートしています。ここでは、Web GUIを使用するための設定や操作について説明します。



Web GUIとCLIでは、操作手順や実行可能な項目に一部違いがあります。詳細は「コマンドリファレンス」の「Web GUI」の章を参照してください。

設定環境

本製品でWeb GUIを使用する場合は、下記の環境でご使用ください。

- Webブラウザは、Microsoft Internet Explorer 6以上 (Windows版) を使用してください。
- モニターは、1024×768以上の解像度でを使用することをお勧めします。1024×768以上の解像度がない場合、一部のフレームが表示されないことがあります。
- ファイル転送は、Internet ExplorerのHTTP機能を利用します。



「ポップアップをブロックする」が有効な場合、本機能を使用することはできません。[ツール]メニューの[インターネットオプション]を選択し、[プライバシー]タブの「ポップアップ ブロック」の設定において、本製品のIPアドレスを許可する設定にしてください。



Internet Explorer 7以上のブラウザでファイル転送を行うには、[ツール]メニューの[インターネットオプション]で、[セキュリティ]タブの[レベルのカスタマイズ]をクリックし、「サーバーにファイルをアップロードするときにローカル ディレクトリのパスを含める」を有効にする設定にしてください。本設定は、Internet Explorer 7ではデフォルト有効に、Internet Explorer 8 / 9ではデフォルト無効になっています。



Internet Explorer 8 / 9でSmartScreenフィルター機能を有効にしていると、設定ファイルの取得に時間がかかる場合があります。この現象を回避するには、以下の方法を実行してください。

- 1 [ツール] ボタンをクリックし、[インターネット オプション] をクリックします。
 - 2 [インターネット オプション] 画面にて[セキュリティ] タブをクリックします。
 - 3 [ローカル イン트라ネット] をポイントしてから、[サイト] ボタンをクリックします。
 - 4 [ローカル イン트라ネット] 画面にて[詳細設定] ボタンをクリックします。
 - 5 ファイル ダウンロード元のサイトを入力し、[追加] ボタンをクリックします。
 - 6 [ローカル イン트라ネット] 画面および、[インターネット オプション] を閉じます。
- ファイルのダウンロード完了後、設定を元に戻すことを推奨します。

3.2 Web GUI

設定の準備

Web GUIを使用するには、あらかじめコンソールターミナルからログインし、本製品に以下の設定を行います。

IPアドレスを設定する

IPアドレスの設定方法については38ページ「操作の流れ」の「○ IPアドレスを設定する」を参照してください。

 38ページ「操作の流れ」

HTTPサーバー機能を有効にする

本製品のHTTPサーバー機能はデフォルトで無効 (Disabled) になっています。Web GUIを使用するには、HTTPサーバー機能を有効にしてください。

使用コマンド

```
ENABLE HTTP SERVER
SET HTTP LISTENPORT
SHOW HTTP SERVER
```

- 1 HTTPサーバー機能を有効にします。

```
Manager > enable http server [Enter]
```

- 2 HTTPサーバーのリスニングTCPポート番号を変更することができます。デフォルトは80です。

```
Manager > set http listenport=180 [Enter]
```



セキュリティ確保のため、HTTPサーバーのTCPポート番号は変更することをお勧めします。

- 3 HTTPサーバー機能の設定は、SHOW HTTP SERVERコマンドで確認できます。

```
Manager > show http server [Enter]
```

```
HTTP Server Module Configuration:
-----
Status                : Enabled
HTTP Server Listen Port : 180
-----
```



本製品のHTTPサーバー機能はWeb GUI専用です。その他の用途はサポート対象外ですので、ご了承ください。

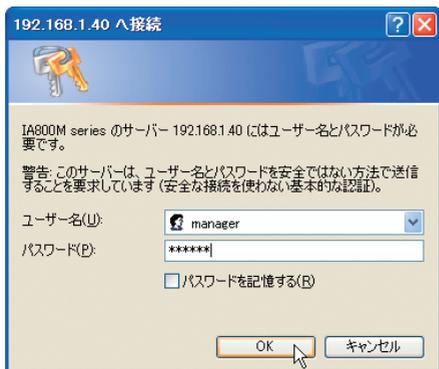
ログインする

Web ブラウザーを使用して本製品にログインします。

- 1 Web ブラウザーを起動します。
- 2 「アドレス」に本製品の IP アドレスを入力し、**[Enter]** キーを押します。ここでは、本製品に IP アドレス「192.168.1.40」が割り当てられていると仮定します。
本製品の HTTP サーバーの TCP ポート番号を変更している場合は、IP アドレスに続けて「コロン (:) TCP ポート番号」の形式で TCP ポート番号を入力します (例: 192.168.1.40:180)。



- 3 次のダイアログボックスが表示されたら、「ユーザー名」と「パスワード」を入力します。ここでは、ユーザー名「manager」と初期パスワード「friend」を入力するものとします (入力したパスワードは「*」で表示されます)。
入力したら「OK」をクリックします。



- 4 ログインに成功すると、下記の画面が表示されます。

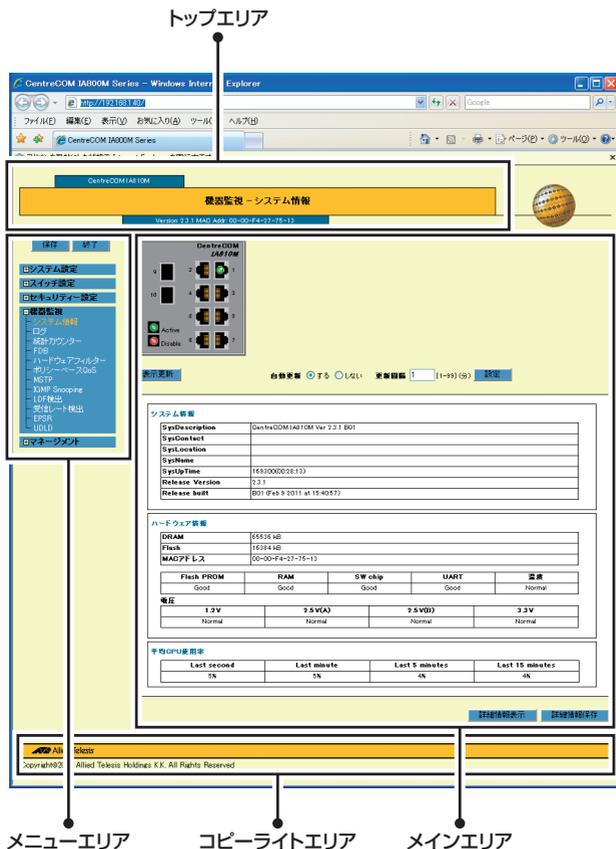


本製品は、同時に複数のユーザーが Web GUI からログインすることが可能です。あるユーザーが設定を変更した後に、別のユーザーが同じ設定を変更した場合、設定は上書きされますのでご注意ください。

3.2 Web GUI

画面の構成

設定画面は、次の4つのエリアで構成されています。



トップエリア

トップエリア（画面上部のフレーム）には、製品名、現在選択されているメニュー項目、ファームウェアバージョン名、MACアドレスが表示されます。

現在選択されているメニュー項目は、「大項目 - 小項目」の形式で表示されます（例：機器監視 - システム情報）。メニュー項目は機能別におおまかなグループ分けがされています。大項目として表示されるのがグループ名、小項目として表示されるのがメニュー項目の最小単位の機能名です。

メニューエリア

メニューエリア(画面左のフレーム)には、メニューがツリー状に表示されます。

メニューの大項目(グループ名)をクリックすると、小項目が表示されます。

小項目(機能名)をクリックすると、選択された項目は黄色で表示され、メインエリアにその機能に関する設定画面やステータス表示画面が表示されます。



メニューの上には、「保存」、「終了」の2つのボタンがあります。



3.2 Web GUI

「保存」ボタン

現在の設定内容を保存するボタンです。各設定画面の「設定」ボタンがクリックされると、「保存」ボタンが赤に変わります。

「終了」ボタン

本製品からログアウトし、設定画面を閉じます。

メインエリア

メインエリア（画面右のフレーム）には、メニューエリアで選択した小項目（機能名）に関する、設定項目やステータスが表示されます。

コピーライトエリア

コピーライトエリア（画面下部のフレーム）には、弊社のロゴとコピーライト（著作権）が表示されます。

メインエリアの操作

メインエリアで使用する主な操作ボタンは、次のとおりです（下の画面は「バーチャルLAN」メニューの場合）。

The screenshot displays two main sections of the Web GUI. The top section is titled 'バーチャルLAN設定' (Virtual LAN Settings) and contains the following elements:

- Section title: **バーチャルLAN設定**
- Text: **IP インターフェース(VLAN) : default**
- Checkbox: **インgressフィルタリング有効**
- Buttons: **設定** (Set) and **リセット** (Reset)

The bottom section is titled 'VLANグループ一覧' (VLAN Group List) and contains a table with the following data:

VLAN名	VID	タグ付きポート	タグなしポート
default	1	None	all

Below the table are three buttons: **追加** (Add), **変更** (Change), and **削除** (Delete).

「設定」ボタン

入力した内容を本製品の動作に適用するボタンです。「設定」ボタンのクリックにより、設定内容はただちに本製品の動作に反映されます。

「リセット」ボタン

入力した内容を消去し、本製品に適用した設定内容（機器からの読み込み値）に戻すボタンです。

「追加」ボタン

テーブルにエントリーを追加するボタンです。「追加」ボタンをクリックすると、設定画面が表示されるので、必要な項目に入力して「適用」ボタンをクリックします。

「変更」ボタン

すでにテーブルに追加・登録されているエントリーを変更するボタンです。変更したいエントリーのラジオボタン（またはチェックボックス）をクリックして、「変更」ボタンをクリックします。設定画面が表示されるので、必要な項目に入力して「適用」ボタンをクリックします。

「削除」ボタン

すでにテーブルに追加されているエントリーを削除するボタンです。

設定を保存する

設定内容は「設定」ボタンのクリックによってただちに本製品に反映されますが、ランタイムメモリー上にあるため、本製品を再起動すると消去されます。

再起動後にも同じ設定で運用したい場合は、設定内容をスクリプトファイルに保存します。

1 「保存」ボタンをクリックします。

2 「コンフィグレーション保存」画面が表示されます。

新規にファイルを作成して保存する場合は、「新規ファイルに保存する」ラジオボタンをクリックして、ファイル名を入力してください。

「起動時設定ファイルに保存する」ラジオボタンをクリックすると、現在選択されているファイル（起動時設定ファイル）に上書き保存します。

「既存ファイルに保存する」ラジオボタンをクリックすると、現在本製品のファイルシステムに保存されている設定ファイルに保存します。プルダウンメニューから保存するファイルを選択してください。

最後に「保存」ボタンをクリックします。

3.2 Web GUI



- 3 保存が完了すると、「コンフィグレーション保存」画面が閉じ、「保存」ボタンは赤から青に戻ります。

起動時に読み込まれるデフォルトの設定スクリプトファイル（起動時設定ファイル）を指定する場合は、「コンフィグファイル」メニューで行います。

- 1 メニューエリアの「マネージメント」をクリックします。
- 2 「コンフィグファイル」をクリックし、「コンフィグファイル」画面を表示します。
- 3 「起動時設定ファイル変更」でプルダウンメニューから起動時に読み込まれるデフォルトの設定スクリプトファイルを選択します。
- 4 「設定」ボタンをクリックします。

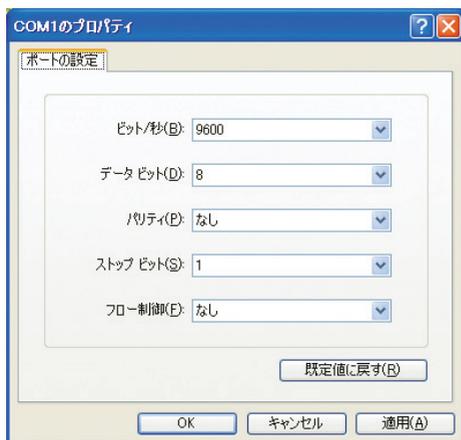
3.3 ハイパーターミナルの設定

コンソールターミナルとして、Windows 2000/XPに標準装備のハイパーターミナルを使用する例を示します。

(コンソールケーブル「CentreCOM VT-Kit2 plus」、または「CentreCOM VT-Kit2」は、COM1に接続すると仮定します。)

 お使いのOSによっては、ハイパーターミナルが標準添付されていないことがあります。別途、 コンソールターミナル(通信ソフトウェア)をご用意ください。

- 1 ハイパーターミナルを起動します。
[スタート] ボタンをクリックし、[プログラム(すべてのプログラム)] をポイントします。次に [アクセサリ] をポイントし、[通信] をポイントします。次に [ハイパーターミナル] をクリックします。
- 2 [接続の設定] ダイアログボックスが表示されます。[名前] ボックスで名前を入力し、[アイコン] ボックスでアイコンを選んで、[OK] をクリックします。
モデムのインストールをするかどうかを問うダイアログボックスが表示された場合は、[いいえ] をクリックします。
- 3 接続方法を設定します。
Windows 2000の場合- [接続の設定] ダイアログボックスが表示されます。
[接続方法] ボックスで、[Com1へダイレクト] を選択して、[OK] をクリックします。
Windows XPの場合- [接続の設定] ダイアログボックスが表示されます。
[接続方法] ボックスで、[COM1] を選択して、[OK] をクリックします。
- 4 「COM1のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
各項目を下図のように設定して、[OK] をクリックします。
(下の画面はWindows XPの場合)



3.3 ハイパーターミナルの設定

- 5 「XXXX-ハイパーターミナル (HyperTerminal)」のような、手順2で設定した名前のウィンドウが表示されます。
- [ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックします。次に [設定] タブをクリックし、各項目を下図のように設定し、[OK] をクリックします。
- (下の画面はWindows XPの場合)



- 6 以上で、設定が終わりました。
- [Enter] キーを押すとログインセッションが開始され、「login: 」プロンプトが表示されます。

3.4 Telnet クライアントの設定

本製品はTelnetサーバーを内蔵しているため、他のTelnetクライアントからネットワーク経由でログインすることができます。

ここでは、Windows 2000/XPのTelnetクライアントの設定方法を説明します。



ヒント

Telnetを使用する場合は、あらかじめコンソールターミナルで本製品にIPアドレスを割り当てておく必要があります。

 参照 38ページ「操作の流れ」

1 ネットワークに合わせてTCP/IPプロトコルの環境設定を行います。

Windows 2000の場合-[スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントします。次に[コントロールパネル] をクリックし、[ネットワークとダイヤルアップ接続] アイコンをダブルクリックします。次に[ローカルエリア接続] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。[インターネットプロトコル(TCP/IP)] をクリックし、[プロパティ] をクリックして、設定を行います。

Windows XPの場合-[スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をポイントします。次に[ネットワークとインターネット接続] アイコンをクリックし、[ネットワーク接続] アイコンをクリックします。次に[ローカルエリア接続] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。[インターネットプロトコル(TCP/IP)] をクリックし、[プロパティ] をクリックして、設定を行います。

各製品に添付されているマニュアルをご覧ください。IPアドレスなどを正しく設定してください。

2 Telnetクライアントを起動します。

[スタート] ボタンをクリックし、[ファイル名を指定して実行] をクリックします。[名前] ボックスで「TELNET」と入力して、[OK] をクリックします。[名前] ボックスで「TELNET 192.168.200.1」のように、TELNETに続けて本製品のIPアドレスを指定することもできます。

3 ターミナルの設定を行います。

次のコマンドを入力して、**[Enter]** キーを押します。漢字コードセットをシフトJISに設定するには、SET CODESET Shift JISコマンドを実行します。

```
Microsoft Telnet> SET TERM VT100
```

4 本製品のTelnetサーバーに接続します。

次のコマンドを入力して、**[Enter]** キーを押します。OPENに続けて本製品のIPアドレスを指定します。

```
Microsoft Telnet> OPEN 192.168.200.1
```

5 以上で、設定が終わりました。

[Enter] キーを押すとログインセッションが開始され、「login: 」プロンプトが表示されます。

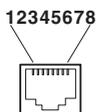
3.5 仕様

ここでは、コネクターのピンアサインやケーブルの結線、電源部や環境条件など本製品の仕様について説明します。

コネクター・ケーブル仕様

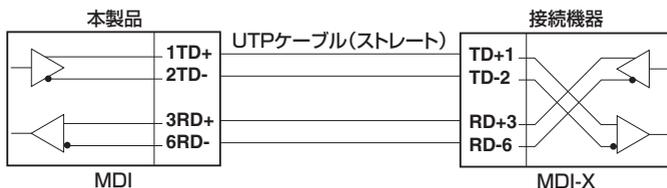
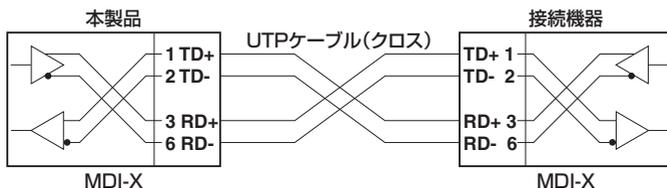
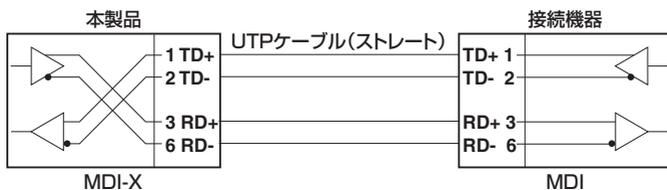
10BASE-T/100BASE-TX インターフェース

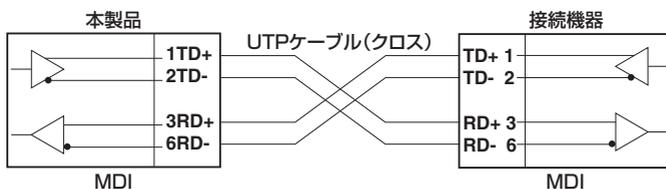
RJ-45型のモジュラージャックを使用しています。



コンタクト	MDI信号	MDI-X信号
1	TD+ (送信)	RD+ (受信)
2	TD- (送信)	RD- (受信)
3	RD+ (受信)	TD+ (送信)
4	未使用	未使用
5	未使用	未使用
6	RD- (受信)	TD- (送信)
7	未使用	未使用
8	未使用	未使用

ケーブルの結線は下図のとおりです。





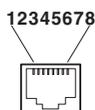
100BASE-FX インターフェース

2連SCコネクタを使用しています。

使用ケーブル	G150/125 マルチモードファイバー (ITU-T G.651 準拠)	
	G162.5/125 マルチモードファイバー	
光ポート	2連SCコネクタ	
中心波長	1310nm	
送信光レベル	最大	-14dBm
	最小	-24dBm (50/125μm) -20dBm (62.5/125μm)
受信光レベル	最大	0dBm
	最小	-31dBm
許容損失	7dB (50/125μm)	
	11dB (62.5/125μm)	
最大伝送距離	2km	

RS-232 インターフェース

RJ-45型のモジュージャックを使用しています。



RS-232 DCE	信号名 (JIS 規格)	信号内容
1	RTS (RS)	送信要求
2	NOT USED	未使用
3	TXD (SD)	送信データ
4	GND (SG)	信号用接地
5	GND (SG)	信号用接地
6	RXD (RD)	受信データ
7	NOT USED	未使用
8	CTS (CS)	送信可

3.5 仕様

本製品の仕様

準拠規格	
	IEEE 802.3 10BASE-T IEEE 802.3u 100BASE-TX, 100BASE-FX IEEE 802.3x Flow Control IEEE 802.3ad Link Aggregation (Manual Configuration) IEEE 802.1D Spanning Tree (STP Compatible) IEEE 802.1Q VLAN Tagging IEEE 802.1p Class of Service, priority protocol IEEE 802.1s Multiple Spanning Tree IEEE 802.1w Rapid Spanning Tree
適合規格	
安全規格	UL508
EMI規格	VCCIクラスA EN55022 Class A
EMS規格	IEC61000-4-2, IEC61000-4-3, IEC61000-4-4, IEC61000-4-5, IEC61000-4-6, IEC61000-4-8
保護等級	IEC60529 IP30
振動	IEC60068-2-6
衝撃	IEC60068-2-27
自由落下	IEC60068-2-32
電源部	
定格入力電圧	DC24V (Class 2 電源) ^{*1}
入力電圧範囲	DC21.6-26.4V
定格入力電流	0.5A
最大入力電流 (実測値)	0.37A
平均消費電力	6.5W (最大7.5W)
平均発熱量	23kJ/h (最大27kJ/h)
環境条件	
保管時温度	-20～70℃
保管時湿度	95%以下 (ただし、結露なきこと)
動作時温度	垂直方向設置時: 0～60℃ 水平方向設置時: 0～50℃
動作時湿度	80%以下 (ただし、結露なきこと)
汚染度	汚染度2 ^{*2}
外形寸法	
	58 (W) × 100 (D) × 130 (H) mm
質量	
	670g
スイッチング方式	
	ストア&フォワード
MACアドレス登録数	
	8K (最大)
メモリー容量	
パケットバッファ容量	512KByte
フラッシュメモリー容量	16MByte
メインメモリー容量	64MByte

サポートするMIB	
	MIB-II (RFC1213) ブリッジMIB (RFC1493) イーサネットMIB (RFC2665) インターフェース拡張グループMIB (RFC2863 [if X Entry]) Dot1q MIB (RFC2674) プライベートMIB

- ※ 1 本製品に給電するDC電源はUL1310で規定されたClass 2電源装置を使用してください。
- ※ 2 機器が使用される環境でどのような汚染を受けるかを示す指標です。汚染度2とは、非導電性の汚染しか発生しないが、凝結による一時的な導電がたまたま起こりうる環境です。

3.6 保証とユーザーサポート

保証、修理について

本製品の保証内容は、製品に添付されている「製品保証書」の「製品保証規定」に記載されています。製品をご利用になる前にご確認ください。本製品の故障の際は、保証期間の内外にかかわらず、弊社修理受付窓口へご連絡ください。

アライドテレスイス株式会社 修理受付窓口

<http://www.allied-tesesis.co.jp/support/repair/>

Tel: ☎ 0120-860332

携帯電話 / PHSからは: 045-476-6218

月～金(祝・祭日を除く) 9:00～12:00 13:00～17:00

保証の制限

本製品の使用または使用不能によって生じたいかなる損害(事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失またはその他の金銭的損害を含み、またこれらに限定されない)につきましても、弊社はその責を一切負わないものとします。

ユーザーサポート

障害回避などのユーザーサポートは、次の「サポートに必要な情報」をご確認のうえ、弊社サポートセンターへご連絡ください。

アライドテレスイス株式会社 サポートセンター

<http://www.allied-tesesis.co.jp/support/info/>

Tel: ☎ 0120-860772

携帯電話 / PHSからは: 045-476-6203

月～金(祝・祭日を除く) 9:00～12:00 13:00～17:00

サポートに必要な情報

お客様の環境で発生した様々な障害の原因を突き止め、迅速な障害の解消を行うために、弊社担当者が障害の発生した環境を理解できるよう、以下の点についてお知らせください。なお、都合によりご連絡が遅れることもございますが、あらかじめご了承ください。

1 一般事項

- サポートの依頼日
- お客様の会社、ご担当者

- **ご連絡先**
すでに「サポートID番号」を取得している場合、サポートID番号をお知らせください。サポートID番号をお知らせいただいた場合には、ご連絡住所などの詳細は省略していただいてもかまいません。
- **ご購入先**

2 使用しているハードウェア・ソフトウェアについて

- シリアル番号とリビジョンをお知らせください。
シリアル番号とリビジョンは、本体に貼付されている（製品に同梱されている）シリアル番号シールに記載されています。



S/N以降のひと続きの文字列がシリアル番号、スペース以降のアルファベットで始まる文字列(上記例の「A1」部分)がリビジョンです。

- ファームウェアバージョンをお知らせください。
ファームウェアバージョンは、SHOW SYSTEM コマンドで表示されるシステム情報の「Release Version」の項で確認できます。
- オプション(別売)製品を使用している場合は、製品名をお知らせください。

3 問い合わせ内容について

- どのような症状が発生するのか、それはどのような状況で発生するのかをできる限り具体的に(再現できるように)お知らせください。
- エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッセージの内容をお知らせください。
- 可能であれば、設定ファイルをお送りください(パスワードや固有名など差し障りのある情報は、抹消してお送りくださいますようお願いいたします)。

4 ネットワーク構成について

- ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図をお送りください。
- 他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをお知らせください。

ご注意

本書に関する著作権等の知的財産権は、アライドテレシス株式会社（弊社）の親会社であるアライドテレシスホールディングス株式会社が所有しています。

アライドテレシスホールディングス株式会社の同意を得ることなく、本書の全体または一部をコピーまたは転載しないでください。

弊社は、予告なく本書の全体または一部を修正・改訂することがあります。

また、弊社は改良のため製品の仕様を予告なく変更することがあります。

© 2011-2012 アライドテレシスホールディングス株式会社

商標について

CentreCOMはアライドテレシスホールディングス株式会社の登録商標です。

Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

本書の中に掲載されているソフトウェアまたは周辺機器の名称は、各メーカーの商標または登録商標です。

電波障害自主規制について

この装置は、クラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

廃棄方法について

本製品を廃棄する場合は、法令・条例などに従って処理してください。詳しくは、各地方自治体へお問い合わせいただきますようお願いいたします。

輸出管理と国外使用について

お客様は、弊社販売製品を日本国外への持ち出または「外国為替及び外国貿易法」にいう非居住者へ提供する場合、「外国為替及び外国貿易法」を含む日本政府および外国政府の輸出関連法規を厳密に遵守することに同意し、必要とされるすべての手続きをお客様の責任と費用で行うことといたします。

弊社販売製品は日本国内仕様であり、日本国外においては製品保証および品質保証の対象外になり、製品サポートおよび修理など一切のサービスが受けられません。

マニュアルバージョン

2011年 6月 Rev.A 初版

2012年 4月 Rev.B 誤記訂正

